

民衆の声  
ボイス

No.107

公明党 横浜市会ニュース

# VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市会議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL.671-3023 FAX.681-2060

## 令和6年度 予算成立 防災・減災・復興を政治の主流に!

### 新たな地震防災戦略に反映



予算代表質疑で、斉藤伸一公明党市議団長が市政の重要課題について山中市長らの見解をいただきました。

公明党は、「防災・減災・復興を政治の主流に」と提唱し、自然災害から市民の生命と財産を守り抜くことを、政治の最重要課題として取り組んできました。

元日の能登半島地震を踏まえて、横浜での大地震

に対する今後の防災対策の方向性などについて、山中市長に見解を求めました。

市長からは、「建物やライフライン等の耐震化、地震火災対策、自助・共助の浸透、地域防災拠点の環境等のハード・ソフト両面からの対策の一層の推進とともに、能登半島地震で顕在化した避難の長期化や、上瀬谷での広域応援活動拠点の具体化などの災害への対応力の強化を検討し、新たな地震防災戦略に反映していく」との見解が示されました。

★地震等による電気火災抑制に有効な  
感震ブレーカー設置加速へ!  
設置補助対象を、市内全域へ拡大!

「地震防災対策強化パッケージ」に、  
公明党の提案が随所に実現!

- 学校体育館のエアコン設置を加速  
これまでに89校に設置完了
- 全ての公共施設のWiFi環境を整備  
Free Wi-Fi
- 備蓄品を充実  
段ボールベッド(導入済) + 備蓄に追加!
- カセットコンロ  
液体ミルク

### 特別支援教育支援員の謝金単価を上げへ!

公明党は、現在1時間 500円である謝金の基準の改善を訴え続け、6年度から1時間1,000円へ引き上げられました。支援員は、常に大人の見守りが必要な児童・生徒にとって欠かせない存在であり、年々高まる学習や行動面に対するニーズに対応し、さらなる担い手の確保を推進します。



### 児童手当の大幅な拡充がカタチに!

公明党が、創設・拡充を一貫してリードしてきた児童手当が、いよいよ10月から抜本的に拡充されます。

#### 《児童手当の拡充へ 公明党の歩み》

- 1963年 児童手当の新設を掲げる
- 1972年 制度創設。第3子以降に月額3000円
- 1986年 第2子以降に拡大
- 1992年 第1子まで拡大
- 2000年 義務教育修学前まで拡大
- 2004年 小学校3年生修了前まで拡大
- 2006年 小学校修了前まで拡大。所得制限を緩和
- 2010年 中学校修了前まで拡大
- 2012年 新たな児童手当(右表)



対象児童	手当月額
3歳未満	1万5000円
3歳~小学校修了前	1万円
●第1子、第2子	1万円
●第3子以降	1万5000円
中学生	1万円
所得制限以上	5000円

2024年10月  
~大幅拡充!  
●対象:高校修了前まで  
●所得制限:撤廃(一律支給)  
●第3子以降:3万円

★横浜市対象者:約35万人+約13万人(新規)

### 災害対応力を強化する女性の視点

災害は、自然現象(自然要因)とそれを受け止める側の社会の在り方(社会要因)により、その被害の大きさが決まると考えられており、被害を小さくするためには、社会要因による災害時の困難を最小限にする取組が重要です。中でも、人口の半分は女性であり、女性と男性が災害から受ける影響の違いなどに十分に配慮された女性の視点からの災害対応が行われることが、防災や減災、災害に強い社会の実現にとって必須となります。



公明党横浜市会議員

竹内 やすひろ

#### ~男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン~

##### 7つの基本方針

- (1) 平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- (2) 女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- (3) 災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- (4) 男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- (5) 女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- (6) 男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- (7) 要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する



#### 「地震だっ!」もしもの時こそ 女性の視点を大切に。「わたしの防災カノート」

(公財)横浜市男女共同参画推進協会・横浜市政策局により制作された、YOKOHAMA「わたしの防災カノート」があります。「地震だっ!もしものときこそ。女性の視点を大切に。」女性の視点を防災にいかして、だれもが安心できるまちと暮らしを!「わたしの防災カノート」は、実際に震災を経験した女性たちの声をもとに、災害時における不安、課題を整理したものです。女性が直面したりスクを知り、災害に備えることは、誰にとっても安心・安全なまちと暮らしにつながっています。あなたの防災力を、このノートとわたしの防災カノートで見直し、身近な人と話し合ってください。(わたしの防災カノートより)

\*横浜市男女共同参画推進協会のホームページで見ることができます。

#### 子どもも家族も生き残るための防災

妊娠中や子育て中は、自分の思うようには動けないことだらけ。そんな中、どうやって大切な命を守る?「子育てママの防災おしゃべりサロン」に参加の子育て当事者の声から、不安を防災力に変えるヒントを探ります。(同)「子育てママの防災おしゃべりサロン」(2008年2月~7月開催 講師:伊村則子〔武蔵野大学准教授〕)



- 第1章: 防災はイメージする力  
~今、地震が来たら命を守る?  
~「もしも」のとき、わたしは?
- 第2章: 防災はつながる力  
~「もしも」に備える「いつも」
- おわりに: 防災はあきらめない力  
(挟み込み)わたしの防災カノート

#### よこはま防災 e-パーク

いつでも・どこでも・災害の備えを身近に学ぶことができます。

「よこはま防災 e-パーク」はこちらから▶



市民  
相談

神奈川区大口通127-16 コスガビル1F  
横浜市会議員 竹内 やすひろ

TEL.045-716-6822 FAX.045-716-6823

E-mail:mail@takeuchi.180r.com

# 政務活動最前線

## 遺族の手続き負担の軽減へ!

1月に鶴見区と瀬谷区に設置された「お悔やみ窓口」の設置状況などを確認するために、鶴見区役所に新設された窓口を訪問しました。急速に進展する高齢化社会を迎えて、煩雑な死後手続きの簡潔化を求め、遺族の負担軽減に向けて、強力に取り組んできました。新しく「お悔やみハンドブック」も作成され、一層の窓口サービスの充実に向けても取り組んでまいります。



## 横浜 BUNTAI が開館

横浜文化体育館の再整備事業として2018(平成30)年8月から整備が進んでいた「横浜 BUNTAI」が3月23日に開館しました。開館に先立ち1月下旬に館内を視察しました。外観は「帆が受ける潮風」の思想を組み込んだイメージとなり、3階建て、観客席数は、約5,000席のアリーナとなります。市民やプロのスポーツ大会をはじめエンターテイメントなどのイベントが行われます。



## ピンクシャッター 2024 いじめや差別のない社会を

2月22日の市会本会議では、全員が運動への連帯の意思を込めて、ピンクの物を着用して審議に臨みました。ピンクシャッターキャンペーンは、カナダうまれの「いじめ反対運動」で、実話から誕生し、ピンク色のものを身につけることで「いじめ反対」の意思表示をする日です。私たちは、いじめのない環境づくりに全力で取り組んでまいります。



# 令和6年度予算特別委員会の論戦より

### 健康福祉局

#### 「障がい者支援の充実を実現」

**行田 朝仁** (青葉区選出)  
従来より訴えてきた障害者支援について質疑し、国制度の対象とならない補装具については、新年度からは横浜市独自の「補装具費支出費用にかかる特例助成」が創設されます。



また、公共施設や買い物物先などにある車椅子使用者用駐車場の適正利用を図るため、条件に該当する希望者に横浜市が利用証を交付する「パーキングパーミット制度」導入が予算化されます。



▶パーキングパーミット制度

### 資源循環局

#### 「EPR(プラスチック・3ごみ)計画」での行動変容

**尾崎 太** (鶴見区選出)  
今回の計画では、プラスチックごみの分別・リサイクルの拡大が始まることを踏まえ、市民の行動変容につながるよう取組の意義などの啓発を要望しました。局長は、「単に資源物としてプラスチック素材の有効活用に限らず、地球温暖化の防止や脱炭素社会の実現にもつながる計画の意義を、住民説明会や商業施設・主要駅で啓発し、市民の行動変容につなげていく」と答弁しました。



### 市民局

#### 「お悔やみ窓口のサービス向上へ」

**市来 栄美子** (都筑区選出)  
我が党が設置を求めてきたお悔やみ窓口は、本年1月から鶴見区と瀬谷区でモデル設置されましたが、社会状況の変化や市民ニーズを踏まえ、更なるDX推進と区役所窓口のサービスの向上に取り組むべきと訴えました。副市長は、「6年度には、申請書の自動作成システム、証明書の発行端末を全区に設置するなど、『待たない、書かない』窓口づくりを進める」と答えました。



### 都市整備局

#### 「GREENXEXPORON2024(国際園芸博)の渋滞対策」

**木内 秀一** (旭区選出)  
会場までの輸送ルートを詳細に検討した上で、地域の生活環境や周辺道路の渋滞対策に配慮し、円滑な輸送を確保するよう質問



しました。地元の皆様に適宜、情報提供することを前提に、副市長から「八王子街道の上川井一C付近から瀬谷橋までを4車線に拡幅する等、国などの関係機関とも協力して庁内一丸で輸送対策に取り組む」との答弁がありました。

### 総務局

#### 「障害者雇用の更なる推進」

**安西 英俊** (港南区選出)  
今後の法定雇用率の引き上げを見据えて、更なる雇用拡大に向けて、多様な働き方を用意すべきと質問しました。副市長より「誰もがいきいきと働くことができる職場環境づくりに取り組んでおり、採用後1か月間、週20時間の短時間勤務を選択できる制度を新たに導入するなど、障害特性に合わせた柔軟な働き方の実現を目指す」との答弁がありました。



### 港湾局

#### 「ベイブリッジのライトアップのLED化」

**竹内 康洋** (神奈川区選出)  
LED化について、国土交通大臣や首都高速道路(株)に継続して要望すべきと質問しました。副市長は、「首都高とは継続的に調整をしている。オープンした当時はライトアップをして話題も呼んだ。市民の皆様にも観光客の皆様にも、楽しんでいただけるよう引き続き、首都高等と連携して調整していく」と応じました。



(C) Yokohama Visitors Guide

### 国際局

#### 「多文化共生に関する地域課題解決について」

**高橋 正治** (緑区選出)  
急増する外国人に伴う多様な地域課題について質問しました。局長は、「在住外国人は、11万人を超え年に1万人以上増加しており、様々な課題が発生し、国際交流ラウンジだけでは、その対応が難しい。区役所、地域の方々の連携をサポートするために、国際局と各区局との連携により、地域課題の解決に向けてしっかりと向き合っていく」と応じました。



国際交流ラウンジ

### 政策局

#### 「若者の心の支援にかかる市大の研究」

**武田 勝久** (磯子区選出)  
生きづらさを感じる若者に対して、横浜市立大学ではメタバースという仮想空間を活用し、若者を支えるための研究が開始されました。市の施策につながるよう積極的に支援すべきと質問しました。副市長は「この研究が若者の自己肯定感を高め、他社とのつながる力を育めるようしっかりと支援していく」と答弁しました。



### 建築局

#### 「よこはま防災力向上マンション認定制度」に市営住宅を

**久保 和弘** (瀬谷区選出)  
前回の質疑で、制度で認定された多くが既存の民間分譲マンションであり、制度の特徴を生かすためには、市営住宅などの共同住宅でも活用するように要望しており、改めて、市営住宅での本制度の活用を訴えました。局長は「今後の市営住宅の建替えでは、本制度の基準に適合するように浸水対策、防災倉庫、災害時用トイレの設置などの防災対策を実施していく」と応じました。



よこはま防災力向上マンション認定制度▲

### にぎわいスポーツ文化局

#### 「トップアスリートと触れ合う機会の創出」

**望月 康弘** (港北区選出)  
東京2020オリンピック・パラリンピック大会のレガシーとして、パラリンピアン等による学校訪問の機会の充実を図るべきと訴えて、見解を求めました。局長は、「派遣する学校数を100校を上限に実施すること、また講演を聞くだけでなく体験する、考えるをプラスした「共生社会を学ぶワークショップ型授業」として拡充していく」と答弁しました。

